

# 表紙は語る 表紙は語る



## vol. 42 7周年記念号

「最後の晩餐」を使いたいというのは、うさおの長年のテーマ。2002年の記念号の表紙に使おうと四苦八苦したのですが、残念ながらその時は実現しなかった。今回はミスチルの歌「しるし」とも何気によく似合い、うさお得意のひょいひょいで完成。うまくいくときはこんなものなんだなーと思います!(^^)!

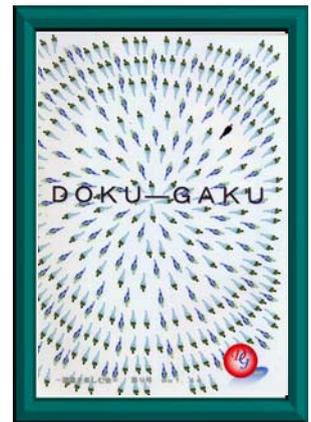


## vol. 43 2007初頭号

こういうものはうさおさんはお嫌いなのです。だってこれってパクリじゃん。いいのよいいのよ。ほんの小さな同人誌だし、ちゃんとジャケのFAKEに作ってあるじゃん、とわたしは思う!

## vol. 44 彩り号

いったい何月になったら発行できるかわからなくて、どうせなら好きな名前をつけちゃえと「彩り号」と命名いたしました。こういう好き勝手ができるのがなんともうれしい。スイカの種に見えるのと遠目で見ると汚い所が気に入らない。でも我慢我慢。花火と思えばいいんだもん。



## vol. 45 HOME号

今月もつい調子に乗って「HOME号」と命名。これなら何月に発行しようが関係なくていいやね!(^^)!ある日、ふと道路わきに置いてある植木鉢を見ると、そこから緑が育ってきている。少しずつ少しずつ成長して、それが桜であることがわかり、5年目くらいには小さな花まで咲かせてくれました。その葉っぱをうさおのお母さんが押し花にしました。あんまり素敵なので表紙に拝借です。



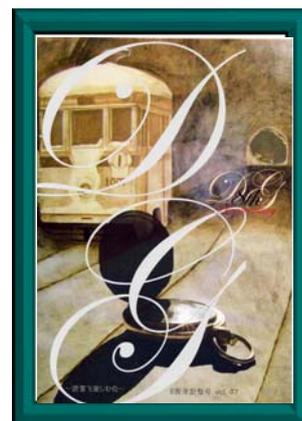
## vol. 46 9月標準号

うさおのお母さん押し花シリーズ第二弾。ゼラニウムの花を使って。コンセプトが見えないとみなさんおっしゃいますが、コンセプトは「HOME」。どんなんだって「HOME」でいいのです^\_^;



vol. 47 8周年記念号のモチーフはミスチルの新曲「旅立ちの唄」。

モチーフがミスチルなのは毎度毎度のことで、これがやりたくてDOKU—GAKU 8年間やりました！というのがまっこと正直な気持ちです。どういふふうであれ、例えみなさんがうざいな～なんて思うのであれ、超個人的にミスチルに対する気持ちを形として残せるのはとっても幸せなことです。この8年間でDGは進化し、ミスチルも変化してきました。もしDGがなかったら変化するミスチルについていかなかったかもしれない、などと思うこともあります。DGがあることによって絆が深まったと感謝しているわけなのです。祝8周年！



ところで、今日（10／5）ミュージックステーションにミスチルが出演し、初めて「旅立ちの唄」を聴きました。「手の届かない場所で背中押してるから」そうだよ、そうだと思うってたんだ。そうやっていつも背中を押してくれるからDGも8年も続く！「でも返事はいらぬから」そうだよ、直接伝える術はないけど、きっといつかたぶん届く。今日テレビを観た何千人か何万人かの人たちがミスチルに背中押されてると感じたはず。そんな気持ちにさせるところがミスチルの凄さ。そう思わせるものを桜井くんは持っている、それは真面目とか誠実とか信頼とか、そういう言葉で置き換えられるものなんじゃないかと思う。いろんな人に支えられながら生きてきたけど、その中に確実にミスチルとか、DGとかってのも存在するんだなあ。いずれくるDG 10周年は盛大に祝いましょうね！

<p>旅立ちの唄 怖がらないで 手当たり次第に灯り点けなくても いつかひとりぼっちの夜は明けていくよ 転んだ日は はるか遠くに感じている景色も 起き上がってよく見ると なんだか辿り着けそうじゃん 君の大好きだった歌 街に流れる それは偶然が僕にくれた さりげない贈り物 Ah 旅立ちの唄 さあ どこへ行こう? どこかでまた会えるね Ah とりあえず「さようなら」 自分が誰かわからなくなるとき 君に語りかけるよ でも もし聞こえていたって返事はいらぬから 大切なものをなくして また手に入れて そんな繰り返しのようで その度新しく 「もうこれ以上 涙流したり 笑いあったりできない」 と言ったって やっぱり人 恋しくて</p>	<p>今が大好きだって躊躇などしないと言える そんなふう日々を刻んでいこう どんな場所においても Ah はじまりを祝い歌う最後の歌 僕は今手を振るよ Ah 悲しみにさようなら 疲れ果てて足が止まるとき少しだけ振り返ってよ 手の届かない場所で背中押してるから Ah 旅立ちの唄 さあどこへ行こう?どこかでまた出会えるね Ah とりあえず「さようなら」 自分が誰か忘れそうなとき ぼんやり思い出してよ ほら 僕の体中 笑顔の君がいるから 背中を押してるから でも返事はいらぬから</p>
---	---